

[普及事項]

新技術名：糖度が高く食味の良い小玉スイカ新品種「秋試交17号」（平成19～25年）

研究機関名 農業試験場 野菜・花き部 園芸育種・種苗担当
担当者 三浦一将・椿信一・他1名

[要約]「秋試交17号」は、「ひとりじめHM」に比べ、果皮色が濃く、縞が太いため果実外部特性が優れている。糖度が高く、シャリ感が強い良食味の小玉スイカ新品種である。

[普及対象範囲] 秋田県内のスイカ生産者。

[ねらい]

秋田県が育成したオリジナルの大玉縞皮スイカ「あきた夏丸」は、栽培の容易さと食味の良さから、本県の主力品種として定着している（2013年度の作付面積は約110ha）。また、品種名を明示した販売促進活動の結果、「あきた夏丸」の認知度は高まり、他品種より高単価で販売されている。さらに、より効果的に本県産スイカの食味の良さを市場や消費者に認知してもらうためには、「あきた夏丸」の果実品質を維持しつつ、姉妹品種を育成することが有効であると考え、その一つとして「あきた夏丸」タイプの小玉新品種の育成を図る。

[技術の内容・特徴]

1. 「秋試交17号」は、2007年に小玉スイカ「あきたシャリン娘」の母本と大玉スイカ「あきた夏丸」の父本を交雑し、選抜固定した2系統を交配した小玉スイカのF1品種である（図1）。
2. 「秋試交17号」の果重は3.4kgで「ひとりじめHM」より肥大しやすく、果形比1.10で「ひとりじめHM」より球形に近く、果皮色が濃く、縞が太いため果実外部特性が優れている（表1、図2）。
3. 「秋試交17号」は「ひとりじめHM」に比べ、裂果しにくい（表1）。
4. 「秋試交17号」は「ひとりじめHM」と比較して、果肉色が濃く、糖度が高く、果肉の硬さは同程度で、シャリ感が強い。食味評価は「ひとりじめHM」より優れ、「あきたシャリン娘」と同等である（表1）。

[成果の活用上の留意点]

1. 本品種の果肉は「ひとりじめHM」や「あきたシャリン娘」と同様に硬いため、高温期に出荷する露地小型トンネル普通栽培に適応する。
2. 種子の供給は秋田県内に限定し、小玉スイカの約半分にあたる15haに普及見込み。

[具体的データ]

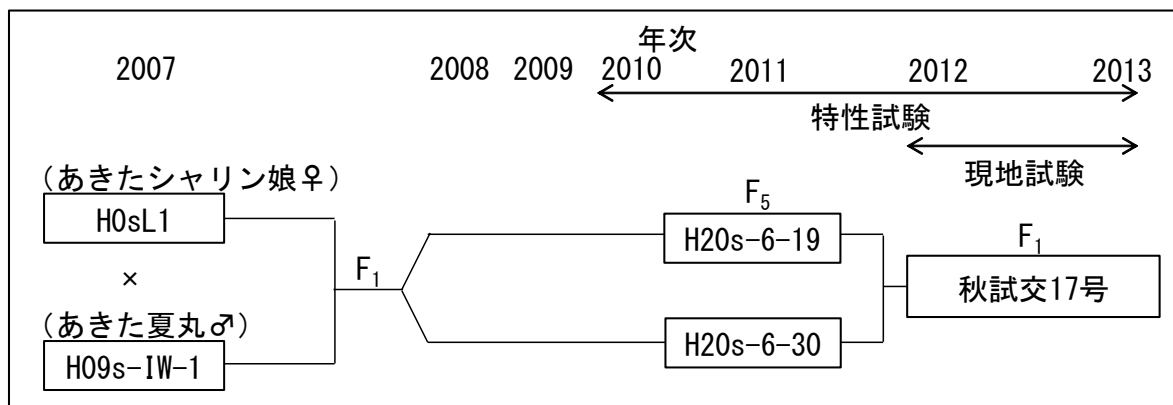


図1. 「秋試交17号」の育成経過

表1. 「秋試交17号」の果実特性（2012～2013、育成地）

品種・系統名	外部特性					内部特性				
	果重 (kg)	果形比	果皮色	縞太さ	裂果の難易	果肉色	糖度 (Brix) (%)	果肉硬さ (kg/cm ²)	シャリ感	食味
秋試交17号	3.4	1.10	やや濃緑	やや太	やや難	濃赤	12.9	0.29	やや強	8.5
ひとりじめHM (対照)	2.8	1.13	やや淡緑	中	中	赤	12.1	0.31	中	7.0
あきたシャリン娘 (参考)	3.6	1.14	緑	やや細	易	赤	11.7	0.30	強	8.6
対対照品種の評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎

注1) 果形比：果高/果径、硬さの調査には直径5mmの円形プランジャーを使用、食味：1（劣）～9（優）で農試職員5名による官能試験。評価：対照品種と比較して◎（優）、○（同等）、△（やや劣）、×（劣）。「ひとりじめHM」は萩原農場育成。

注2) 耕種概要：露地小型トンネル普通栽培、試験場所：農試露地圃場、試験規模5株/系統、畝間2.7m、株間0.7m、4本仕立て3果どり、台木はドンK。播種4月上旬、定植5月上旬、収穫7月下旬、施肥量(kg/a) N:P₂O₅:K₂O=0.8:1.0:0.6。



図2. 果実外観の比較